地域公開講座

日本資本主義の父 もうひとつの顔

渋沢栄一

生涯、養育院の「院長さん」として

渋沢栄一記念館所蔵

渋沢史料館所蔵

渋沢史料館所蔵

渋沢史料館所蔵

令和６年（2024年）
2月6日(火)
大泉学園ゆめりあホール
練馬区東大泉1丁目29番1号ゆめりあ1内

「日に日に新たなり」

日本を代表する実業家　渋沢栄一氏が福祉事業への貢献のうち
児童養護施設の前身となる「養育院」の設立に注力されたことをご存知ですか。

東京都社会福祉事業団
東京都石神井学園

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

東京都社会福祉事業団は、社会福祉法人として、また、東京都の政策連携団体として、持続可能な開発目標（ＳＤＧｓ）を支援しています。

養育院『巣鴨分院』

明治6年6月渋沢栄一氏が最後に「巣鴨分院」を訪れた時の集合写真
（渋沢史料館所蔵）

渋沢栄一氏は「富をなす根源は、何かといえば仁義道徳、正しい道理の富でなければその富を完全に永続することが出来ない」との考えのもと行動していました。「養育院」と関わりをもつことになったきっかけは、当時の東京府知事大久保 一翁（おおくぼ いちおう）とのご縁だったと伺っています。

1879（明治12）年、渋沢栄一氏39才の時に養育院初代院長に就任して以来、児童たちから「院長さん」として慕われ、寄り添いました。晩年は飛鳥山邸の自邸でも園遊会を催し、児童たちを招待したそうです。左の写真は、1931（昭和６）年6月、渋沢栄一氏が最後に北豊島群西巣鴨町（現在の豊島区西巣鴨）にあった「巣鴨分院」を訪れた時の集合写真です。その年11月11日に91才で生涯を閉じるまで、52年間「院長さん」として養育院を気遣われました。

今回の公開講座では、渋沢史料館に残る当時の貴重な資料を紹介いただくとともに、「日本資本主義の父」として称される渋沢栄一氏が企業や経済団体の設立・経営に関わった一方で、多くの教育・福祉・医療などの社会事業へ関わる出発点となった「養育院」での事業への想いと活動をご紹介します。

石神井学園にも創設者である渋沢栄一氏揮毫（きごう）による石碑等の足跡が残されています。渋沢栄一氏の社会福祉への想いを継承し、この大泉の土地で「日に日に新たなり」の意気をもち、子ども達が将来に希望が持てるよう、石神井学園は児童支援に取り組んでいます。

～ 講演内容 ～　令和６年２月６日（火）午後 13 時 30 分～15 時 30 分

東京都の児童福祉行政について　東京都石神井学園　園長　松尾 正純

第1部

渋沢栄一の社会福祉事業について

地方独立行政法人 東京都健康長寿医療センター　医師　稲松 孝思 先生

第２部

彩色写真で見る東京市養育院巣鴨分院

-渋沢史料館所蔵『東京市養育院写真帖』より-

公益財団法人 渋沢栄一記念財団　学芸員　清水 裕介 先生

ご挨拶　東京都石神井学園　副園長　東金　晃一

ご予約方法

ご予約はGoogleFormsにて受付させていただきます。

お申込方法

こちらのGoogleフォームよりお申込みください。
https://forms.gle/1KtJpG69xXkrKMoX7

入場無料

お問合せはこちらから

東京都石神井学園ホームページ「お問い合わせ」より
https://www.jigyodan.org/shakujii-gakuen/contact/

03-3996-4211

担当：東京都石神井学園　母里、北裏

締切期限：令和6年1月15日(月)

交通案内

電車でお越しのお客様
西武池袋線　大泉学園駅下車徒歩5分
池袋駅から西武池袋線利用　準急15分
所沢駅から西武池袋線利用　各駅停車15分
※公共交通機関をご利用願います。

東京都石神井学園

〒177-0045 東京都練馬区石神井台 3-35-23
[TEL]03-3996-4191　[FAX]03-3996-4190

本園は、児童福祉法に基づく児童養護施設であり児童相談所の決定により、保護者のいない子どもや、その他環境上養護を要する子ども達の心身の健やかな成長とその自立及び家庭復帰を支援しています。